

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 毎月最終例会 18:00
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 和田正敏
 幹事 田部井良和
 会報・雑誌委員長 宮尾紘司

No.27

ロータリー2000：活動は一堅実、信望、持続

ROTARY 2000：ACT WITH CONSISTENCY, CREDIBILITY, CONTINUITY

1999～2000年度 RI会長 カルロ・ラビッツァ

きょうの例会

第838回 平成12年2月8日(火)

警察・消防優良職員表彰

先週の記録

第837回 平成12年2月2日(水)

晴

◆“奉仕の理想”

◆出席報告

会員 70(66)名 出席 42名

出席率 63.64%

前々回 1月18日 (修正出席率) 98.48%

◆ビジター数 (2/1)

65名

◆ゲスト紹介

米山奨学生 ウディン・エムディ・ザイール君

◆紙面の都合上、ニコボックスは次回掲載と致します。

青山職業奉仕委員長挨拶

本日は多数のご出席ありがとうございます。

先程、吉田宮司様にお祝いをして頂きましたので、古いものは払って、新しい福を招き入れ良い年を過ごして頂きたいと思っております。

伊豫田副幹事報告

1. 2月3日(木)ライラセミナー分科会打ち合わせ会を4時よりメゾンブランシュにて開催致しますので担当者をご出席下さい。

和田会長挨拶

恒例の節分会を吉田宮司様のお骨折りにより城山八幡宮において開催できる事に感謝申し上げます。

昨年は勝手なお願いばかりしていましたから、宮司様には内緒で年末にこそっとお札を納めに参りました。その日は大変よく晴れた日で太陽の光がまぶしく感じました。偶然!!玄関から白装束姿の宮司様がお出ましになり、一瞬!隠れ様かと思いましたが、金縛りに遭ったように動けず、光に映えた真白な宮司様は巨大な白天狗のように見え、私にかけられた声は山彦のように響きわたり、音もなく近づいてみえました。

“ギョッ”とした私の心は見透かされてしまいました。「AURA」がある人とは、こういう方をいうのだ!さすが!神様にお仕える方は偉い人だと思いました。

神宮宝曆によると、私は九紫火星生まれです。平成12年は、九紫火星は中宮に回座します。中宮は易の「太極」を仮託することから「帝王の座」と呼び、中央、中心を意味する宮です。「太極」とは、天地陰陽いまだ分からず、混沌としていた最古の星雲時代に、これからあらゆるものを生成しようと鼓動していた『大元氣』を示す。このような事から、中宮には中心・全体・灼熱・冷却・衰滅・破壊・生死といった象意があり、俗に“八方塞がり”などと呼んで恐れられているようです。

吉田宮司様、私をやさしく導いてくださるようお願いいたします。

今日は2000年のII・02月02日のII・IIと、零と弍の組み合わせです。私達は、心を「零」つまり「無」にして、「人の一倍」つまり「人並み」ではなく二倍になるようお互いが助け合い心身ともに磨きあげられるよう努力したいと思います。

◆講話

会員 吉田 玄君
(城山八幡宮 宮司)



本日はようこそご参拝を頂き、そしてこの末森城へお越しを頂きました。

当宮はその名の通り、お城であった山の上にありますから城山八幡宮といわれる訳ですが、本日はこの織田家ゆかりの末森城の事をご紹介したいと思います。時代をさかのぼってみたいと思います。

まず100年前です。1900年、明治33年、明治後期。総理は山県有朋、末森城の姿は残っておりません。

また100年さかのぼります。1800年、寛政12年、江戸後期。11代将軍家斉、老中松平定信による寛政の改

草が一段落した頃です。

100年さかのぼります。1700年、元禄13年、江戸中期。5代将軍綱吉の時代です。浅野内匠頭長矩と吉良上野介義央との刃傷事件の1年前です。

もう100年さかのぼります。1600年、慶長5年、安土桃山時代末期。秀吉が死に、関ヶ原の合戦で石田三成が斬殺されました。城は大変に傷んで、廃墟となっております。

それから44年さかのぼります。44年前、弘治2年(1556年)です。宝町後期(戦国時代)13代足利義輝が将軍の時代です。ここは織田信行公が城主である末森城の中だと想像して下さい。

今日は弘治2年8月23日です。この末森の城は、9年前の天文16年(1547年)、信長の父である織田信秀公が築いた城です。

しかし、尾張での実権を握っていた織田信秀も7年前の天文18年(1549年)に亡くなりました。

信秀の家督は信長がついで清洲城にいます。

ここ末森城は信秀の死後、信長の弟信行が嗣ぎ、母の土田御前と共におります。

信秀の家臣、林佐渡守通勝、美作守通具、柴田勝家たちも、信行と共にこの末森の城にいます。

弘治2年8月23日の夜半です。雨が降っています。

神門の南は末森城本丸です。

本丸の方が戦の支度で騒がしくなっています。

実はこの末森から約7km程西北の、西区、庄内川(小田井川)橋近くに信長が築いた名塚の城を攻めようとして約2000人程が集まっている最中です。

信秀の死後、その家臣達は、うつけと云われた信長を廃嫡し、折り目正しい秀才型の信行を立てようとして、ついに兄弟が衝突したのです。

8月24日明け方、柴田勝家の兵は清水から安井、成願寺を通って西に進み、名塚城へ迫っています。

林美作守の兵は那古野城から浄心を通り北へ向かい、これも名塚城へ迫っています。

名塚の城は東に柴田勢、南に林勢に囲まれました。

勿論、この様子は清洲の信長にも伝わっています。

信長勢は庄内川の北の坂井戸までできていますが、雨の為の増水で川を渡るのに苦勞し、夜明け前になってやっと名塚に到着しました。

名塚城の城主は佐久間大学です。

300の佐久間勢、1000の信長勢が、2000の柴田勢、700の林勢とぶつかっています。

約半分の信長勢ですが、激戦の末、なんと林美作守は信長に直接討ち取られてしまい、完全に信長の勝ち戦になってしまいました。

信長はここ末森を包囲しましたが、母の土田御前の嘆願を入れ清洲に帰りました。

所謂稲生が原の合戦です。

一社の城を持っていた柴田は、信行に報告の後、清洲城に向かい、信長に信行の助命を嘆願しました。

此度の事は、自分と林美作守の独断で、信行は知らぬ事としたのです。

普通ならば即座に首をはねる信長が何故かこの時は勝家を許しています。

この時から勝家は信行に仕えながら、信長の忠臣となった様です。

信行、勝家、林が謝罪し、母の土田御前からの願いもあって信長は一応信行を許しました。

しかし、信行は信長に対して再び対抗したと云われています。

2年後の永禄元年(1558年)12月2日、信行は母の土田御前と共に、病と称する信長に清洲城へ呼び寄せられ、清洲城内で信長の家臣に謀殺されたと伝えられています。

又、信長自身に殺されたとか、或いは切腹させられたと云う説もあります。

この事件の裏には、柴田勝家の信長への通報があった様です。

しかし、信長にとって尾張の地を固める上で最もやっかいな相手がこの実弟の信行でありました。

主を失った末森城は廃城となり、城跡には神社だけが残されました。

この城跡の神社と、この城から200mも離れていない隣の山の八幡宮とが合祀されて今の城山八幡宮となった訳です。

静かな夜、耳を澄ますと今も信秀、土田御前、信行、柴田勝家、佐久間兄弟、そしてこの城で戦国の夢を描いた者達の関の音が森の中に聞こえてくるようです。

今日、末森城の由来を聞かれて、何か胸騒ぎを感じた方はいらっしやらないでしょうか。

人がその人生で関わる人間とは、その人生だけの関わりではないといひます。もしかすると、皆さんも私も440年前、この末森の城で、何かの関わりを持っていたのかもしれない。

その答えは、私たち自身の内にあります。

この末森の城跡でその記憶の断片を少しでも感じる事ができれば、素晴らしい時間になると思います。

今日は御神酒と、そして新穀で醸造され新嘗祭で神様にお供えされた有難い濁り酒とを八幡宮で用意致しましたのでどうぞ充分お召し上がり頂き、ゆっくりとお過ごし下さい。

節分析禱・追儺式・豆打ち



お祓い後は一人一人神前に玉串を捧げ一年の無病息災を祈禱した後は、夜空に向かって高らかに豆打ち、また直会、夕食会へと続けました。

麻雀会

於：松楓閣 1/27(木)

RANK	NAME	MARK
優勝	山本 眞輔	+57,600
2位	松居 敬二	+11,600
3位	秋山 茂則	+ 8,900
B B	森 幸一	-32,200

(参加者 8名)

次回例会(2月15日)

キャンヘルプタイランドについて